

い。文化が違うと同じようなことが同じように理解されないこともあるので、特別なトレーニングが必要だと思います。

オブライエン カナダの場合ですが、多文化的な国です。マルチリンガルあるいはバイリンガル、あるいはテリトリアのレベルではマルチリンガルの場合もあるわけです。例えば町を歩いていて3ブロックぐらい歩くと20カ国ぐらい、大げさに言っているわけではない。日本、あるいはアジアあるいは他の所に行ったようになって参ります。私の国では非常に大きな問題です。我々が使った戦略の1つというのはカナダの枠組みの中でのということです。医療システムの方で医師及びナースあるいは医療従事者がいろいろなところから人を採用しているということです。できる限りプライマリーケアを同じ言語で行っております。3~4年前だったと思いますが、ミャンマーの人がバンクーバーに来て陽性になりました。そこで努力をしてミャンマー語を話せる医療スタッフを採用するようにしました。そういう人を採用すると、文化的に能力のある人を採用できれば一番良い結果が得られると思います。

ヴィトリア ブラジルの場合ですが、ブラジルに人が来るのではなくうちから外に出ていくことなのですが、1,000人ぐらいでしょうか。ほとんどの人はスペイン語を話す人ということで、かなりポルトガル語と似ているので、こういう場合にはわかりやすいわけです。ブラジルにおいてはその件については大きな問題ではない。近隣の国もスペイン語を話すのでポルトガル語とそれほど違ってないということです。全般的に言って、公衆衛生のシステムにおいても似ている言語だとお互い助け合えることができるという状況です。

若井座長 1つだけ通訳の問題の中で、愛知県の方だと思うのですが、沢田先生に特に愛知県では随分いくつかの施設にポルトガルやスペイン語の通訳を常勤で置いているところがあるということを知ってほしいという内容が寄せられていました。

時間が終わりになってしまうました。これをまとめるのは大変なのですが、1分ほどで全体では今回どういうことが語られたか、次に私たちがどういうふうに取り組めば良いか、かなり重要なメッセージがあったと思います。木原先生から前からもエイズ学会で指摘されているように、日本の青少年における性行動の脆弱性、そして現状のまま推移すると少なくとも見積もっても2010年には50,000人を超えるだろうという警告がなされています。それからウォルファ教授からは特にマイグランドワーカー、移住労働者の脆弱性や女性や家政婦などに対する性的虐待の問題など、そういった人々に対する特別なプログラムというのは当然必要になってくるだろうというメッセージが伝わったと思います。それからブラジルの例は非常に強い政府のコミットメントによってすべての人の治療に対してユニバーサル・アクセスができるようになったということで、政府の強いコミットメントがいかに重要かを語られたと思います。それからオブライエンさんからはケアの問題、それからポピュレーション・ヘルスという考え方に基づいてカナダ政府はエイズに関してコミットメントしているということを語られた。皆様、御存知のとおりカナダのオタワは1987年にヘルスプロモーション会議があり、それが連綿と続いており包括的なプライマリー・ヘルスケアとあいまって非常に重要なメッセージをカナダは絶えず世界に発信しているところでもあると思います。それから、沢田先生からはマイグランドワーカーに対する医療提供が日本においては未だに遅れている。医療の継続に関して

は半数が途中で帰らざるを得なくなってしまう。医療従事者の教育やマイグランドのエンパワメントが重要になってくる。それから池上さんからはぶれいす東京の活動をお話していただき、さまざまな助けを求めている人々は増加しており、エイズの相談に関しても臨床心理士のボランティアの人やその他のボランティアの人たちに安心して相談できる場所がないので、それに対して提供していく。何よりも重要なのはピアグループでのエンパワメントであるということが語られたと思います。

私たち日本にいる者としては、これから非常に早いスピードでエイズの感染者やエイズをもって生活している人々は増えていくだろうと思います。私たち政府が一番欠けているのは人権意識だと思います。人々が健康であること、そしてヘルスケアにアクセスできることは基本的人権の1つであるということをも日本政府は非常に強く持っていただき、それはマイグランドワーカー、他の国から来た人々に対しても日本人々に対しても同じようにアクセスできるということが、それはブラジルの例やカナダやオランダの例のお話を聞きましたが、それを考えあわせればいかに重要かがわかると思います。

私たちは今日、外国から来られたスピーカー、そして日本から長期間関わってこられた先生方から貴重なご意見を伺うことができました。ありがとうございました。非常に短時間でこれだけ多くの内容がありました。未消化の部分があるかも知れませんが、来年のエイズ学会に備えて私たちも前進していきたいと思っております。ありがとうございました。

---

---

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

**HIV 感染症の医療体制に関する研究  
平成 14 年度研究報告書**

発行：平成 15 年 3 月

発行者：HIV 感染症の医療体制に関する研究

主任研究者 白阪 琢磨

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

国立大阪病院 臨床研究部ウイルス研究室

TEL 06-6942-1331

---

---